

第 55 回 日本母性衛生学会

<演題名>

産後 1～2 ヶ月における授乳姿勢に関する母親の主観的評価の予備調査

阿部晃子 ・ 斉藤哲

ピジョン株式会社 中央研究所

<抄録内容>

【目的】

授乳中、母親は、児の口と乳首の高さを調整するため背中を丸めて前屈みになり、不自然な姿勢をとることが多い。この不自然な授乳姿勢が児の吸着から由来するのか、また、母親が授乳時の姿勢をどのように感じているのかを詳しく検討した研究はなく、今回、授乳中の母親の主観的評価について予備調査を試みた。

【方法】

研究主旨を文書と口頭で説明し、同意が得られた産後 1～2 ヶ月の母親 4 名(平均 34.3±2.6 歳)を対象とした。母親は指定したソファ上に座位で授乳した。母親の姿勢、児の姿勢・吸着に関する質問項目を作成し、授乳中に口頭で尋ね、5 件法(よくあてはまるー全くあてはまらない)で回答してもらった。

【結果と考察】

母親の姿勢では「猫背になる」に 4 名中 3 名がよくあてはまると回答し最も多かった。次に多かった項目は「身体の位置が定まらない」で 4 名中 2 名がよくあてはまると回答し、この 2 名のみ「全身が疲れてくる」によくあてはまると回答した。児の姿勢では「顔だけが乳房に向いている」に 4 名中 1 名がよくあてはまると回答し、この 1 名のみ「乳首に痛みを感じる」によくあてはまると回答した。児の吸着では「口先だけで乳首をくわえる」に 4 名中 2 名がよくあてはまると回答した。

授乳中、身体の位置が定まらない母親は、全身の疲労感を訴える傾向がみられた。今回予備的に作成した質問項目を精査し、今後、十分なデータ数の基で再検討する予定である。